

コーヒー粕を利用した果樹栽培における土壌改良方法 及びマルチングによる雑草等抑制効果の検討

1 目 的

動植物性残さのコーヒー粕を用いて、モモ及びイチジクの改植において問題となっている連作障害症状抑制のための土壌改良方法を検討する。また、リンゴ樹冠下にマルチングすることにより、雑草やリンゴ台木からの新梢（ひこばえ）発生抑制効果についても検討する。

2 研究計画・試験方法等

1) 土壌改良方法の検討

モモ及びイチジクを植栽する際に、植穴にコーヒー粕を含む区（コーヒー粕と植栽跡地土壌と完熟堆肥の容量比1:1:1）とコーヒー粕を含まない区（植栽跡地土壌と完熟堆肥の容量比2:1）の2区を設置し、各樹種での生育の違いを検討する。

2) マルチ資材としての検討

リンゴ樹株元から樹冠下に厚さ20cmと30cmでそれぞれコーヒー粕を敷いた区とコーヒー粕マルチングの無い対照区の3区を設置し、雑草とひこばえの発生抑制効果及び樹体や果実品質への影響を調査する。



コーヒー粕を含む区での植栽1年目のモモ樹
（葉の退緑症状）



リンゴ樹株元へのコーヒー粕敷設

